



#### 自己紹介



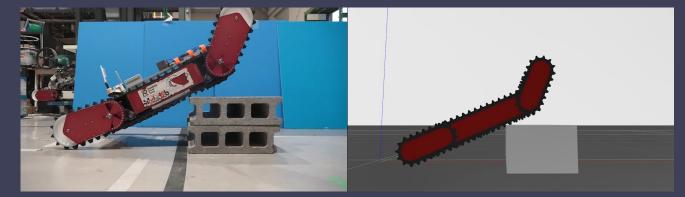
- 東北大学 タフ・サイバーフィジカルAI研究センター 特任准教授
- yoshito-okada



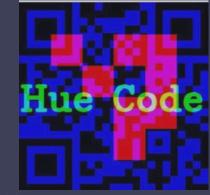
災害対応ロボットの操縦支援 [Okada+, 2010]



球殻ドローンによるインフラ点検 [水谷+, 2013]



グローサ付きクローラの軽量シミュレーション [Okada+, 2020]

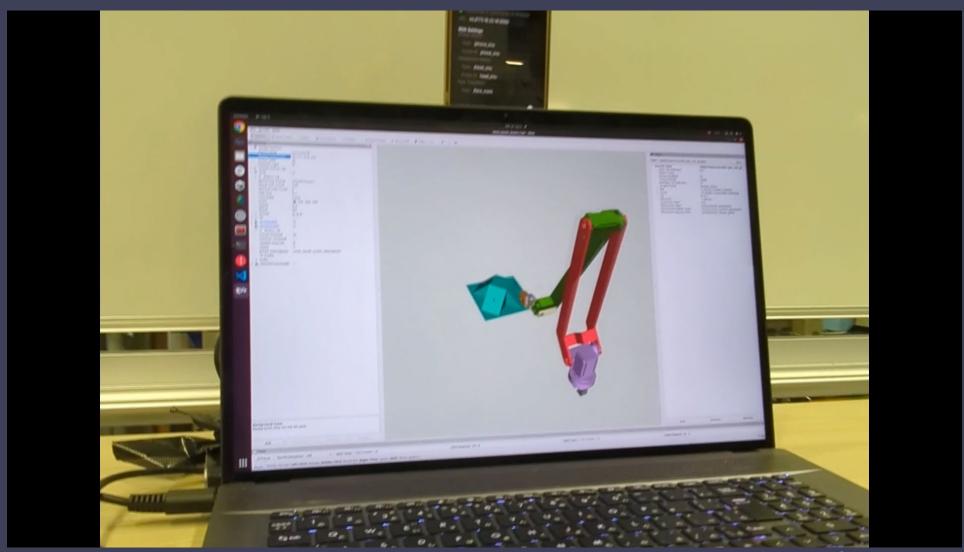


姿勢・任意情報を実世界に埋め込む複合マーカ [Okada+, 2021]



## 本日のメイン: 立体視システム **SpatialVision**





※普通のディスプレイです



#### 立体視は役に立つ

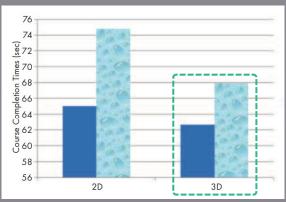




遠隔手術口ボでは **立体視システムが普及** [Nam+, 2012]

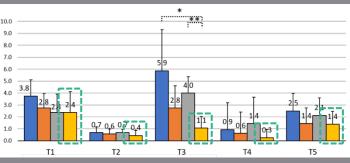






立体視を使った遠隔操縦は 狭路走行の**所要時間を減らす** [Chen+, 2010]





立体視は車両と壁の 接触を減らす [Luo+, 2021]



頭

部姿勢計測

# が、立体視は高コスト&大掛かりになりがち



#### 画像提示

プロジェクタ

液晶シャッター 眼鏡+画面

偏光 眼鏡+画面 レンチキュラー ディスプレイ

**HMD** 

Oculus, HTC

通常ディスプレイ

モーキャプ



**VSLAM** 

顔追跡 カメラ

**IMU** 

なし















SpatialVision は 低コスト&シンプル が狙い



#### ハード構成: AirPods + iPhone + PC





**AirPods** 

内蔵IMUで頭部姿勢を計測

PC (RViz)

カメラアングル を頭部姿勢に同期

→ 運動視差が生じ 立体に感じる



## ソフト構成: iOSアプリ + ROS1/2



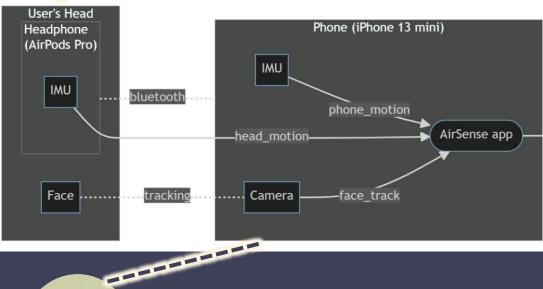


■ 都合よく IMU を内蔵 (AirPods Pro Gen 2 など。 本来は空間オーディオ用)



(WebSocket

■ 都合よく RViz は
Tf にカメラアングルを
同期できる (FrameAlignedモード)



PC (Ubuntu 20.04, ROS Noetic)

measurements
(ROS)

spatial\_vision\_tools

pan\_tilt
rviz

■ 都合よく AirPods IMU に アクセスできる API がある (Core Motion. iOS14以降)

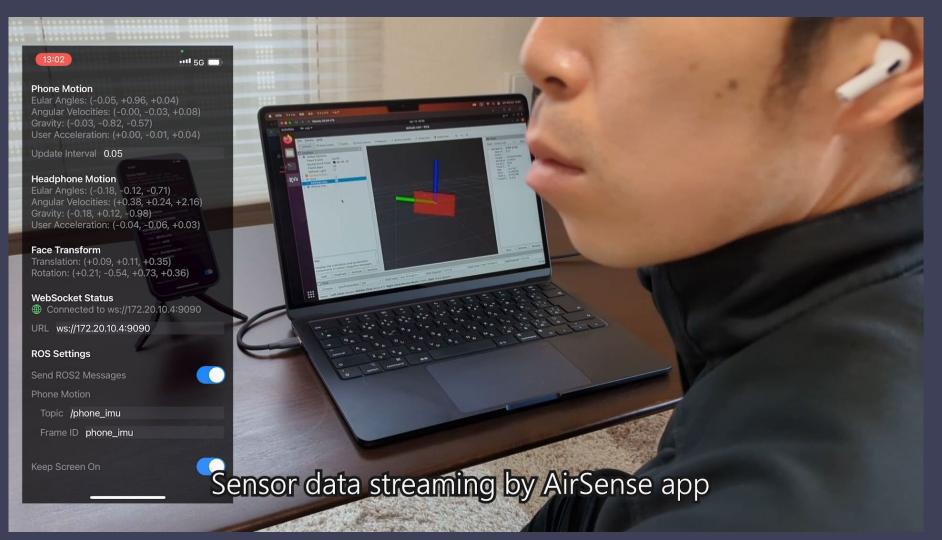


iOSアプリ作って AirPods IMU を Tf に流せばできそう



#### AirSense: iPhone + AirPods をROSセンサ化するアプリ



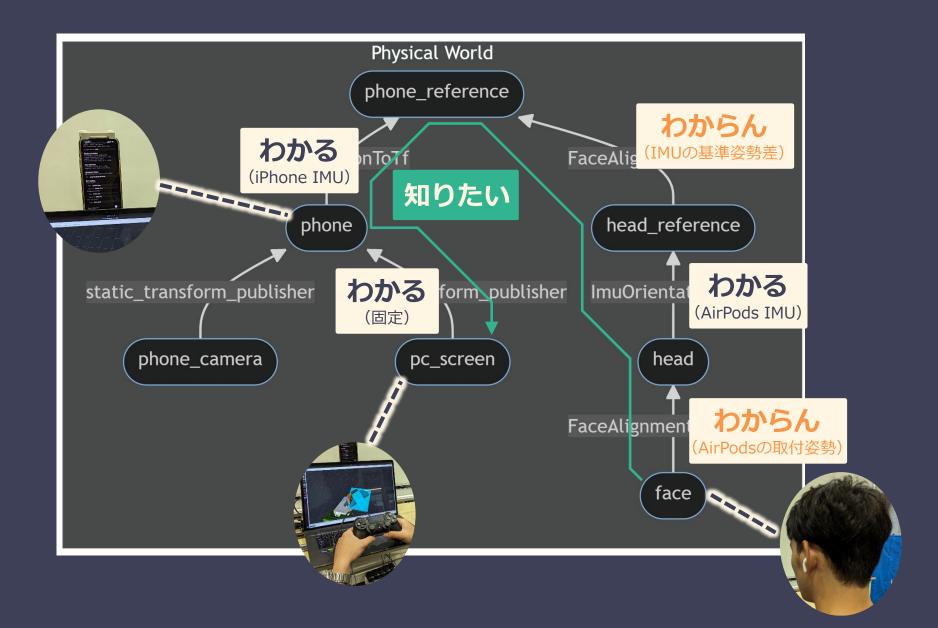


- iOS15以降
- ROS1/2 (要rosbridge)
- AirPods IMU
- 内蔵IMU
- インカメの顔追跡
- アプリ単体でも便利? (MagSafeでくっついて WiFiとモバイル回線で ストリーミングできるIMU)
- 未経験環境&言語だけど 数日でできた (ChatGPT先生のおかげ)



### PCとユーザの相対姿勢を Tf で管理

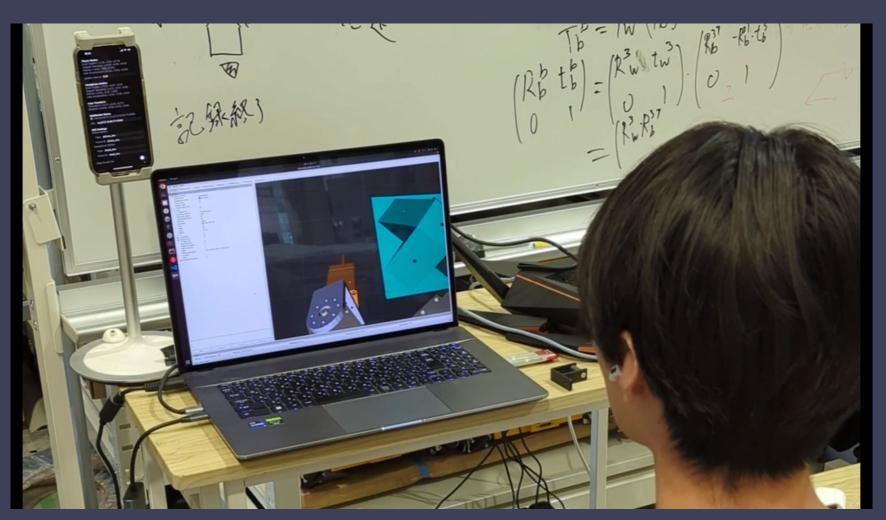






# 「わからん」を10秒でキャリブレーション



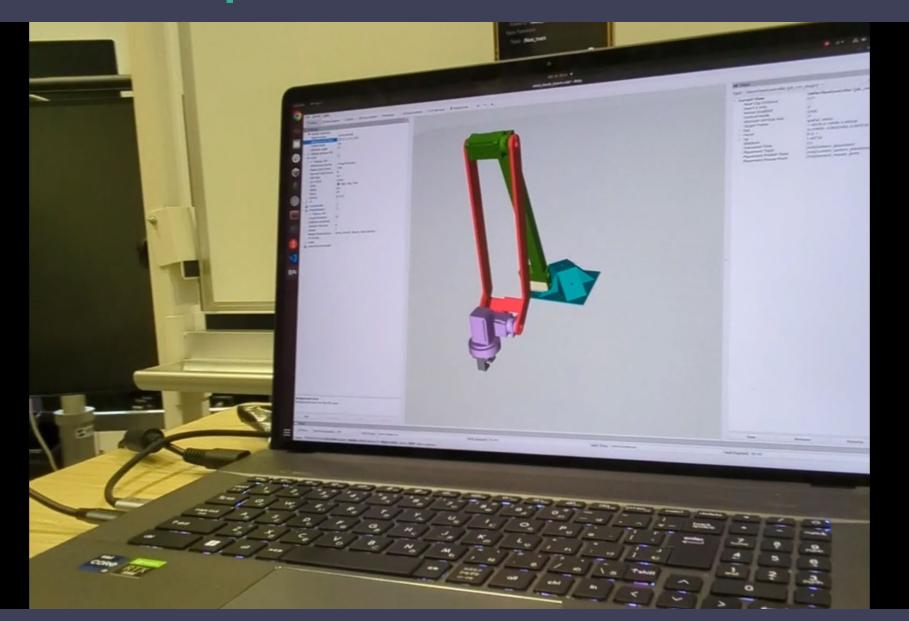


- IMUで計測した頭部姿勢が iPhoneのインカメ顔検出と 一致するように 未知パラメータを最適化
- キャリブ後はインカメ不要→ 視野外でも衆人環視でも動く
- ROS1 Noetic or ROS2 Humble



# で、SpatialVision が完成

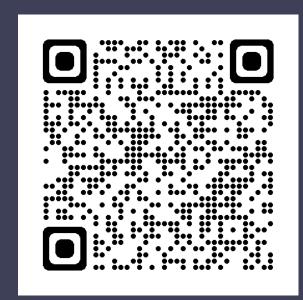






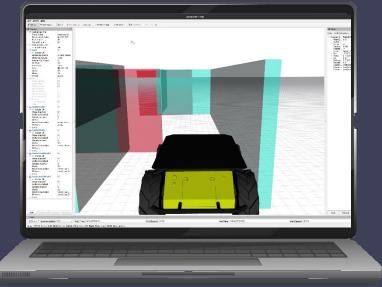
# Star / Issue / PR お待ちしてます













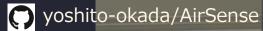
yoshito-okada/AirSense

yoshito-okada/spatial\_vision

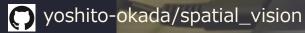
※ソースは論文公開後にコミットするので (Starして) しばしお待ちを…

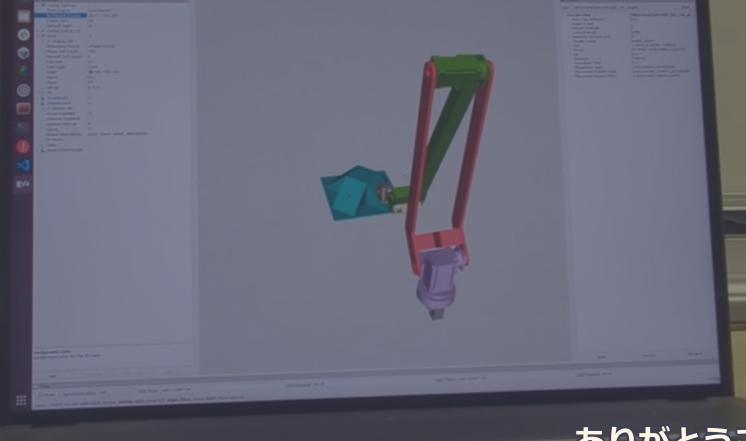














Tohoku University